

かならず専門業者のかたが施工を行ってください。

このたびは、お買い上げいただき、ありがとうございます。
この説明書はお客さまへの取扱説明書をかねております。必ずお客様に取扱いの説明を行っていただき、
この説明書をお渡しの上、保管をお願いしてください。

安全に関するご注意

ケガや事故防止のため、以下のことを
必ずお守りください。

警告

- 人命や社会的に重大な影響を与えることが予測される用途には使用しないでください。
また、本器の不具合による二次的な災害に対しては、当方は責を負いかねます。
- 本器の不具合により財産に影響を与える用途、商業上の損失を被る用途には
負荷を容易に手動操作できるようにするなど、安全対策を講じてください。
- 無電圧接点入力専用です。コネクタのリードには、電圧をかけないでください。
また弱電機器ですので、メガータスターによる絶縁抵抗測定は行わないでください。
機器が破損し、火災の原因となります。
- 本器に100V交流電源を接続しないでください。機器が破損し、火災の原因となります。
- 誤結線なきよう、ご注意ください。特に終端抵抗取付け時には、必ずRC+、RC-
の端子記号を確認してください。

【仕様】

定格電圧	専用の伝送信号により調光器から給電	
使用温度範囲	0～35℃（結露なきこと）	
入力	100ms以上 無電圧 a接点 配線長 50m以下	
モニタ出力	オープンコレクタ 5V 10mA 配線長 50m以下	
適合電線	伝送信号用:EM-CPEE-Sφ0.9×2ペア以上	入力・モニタ出力用:警報用電線AE, OP線等
適合スイッチボックス	JIS 1個用	

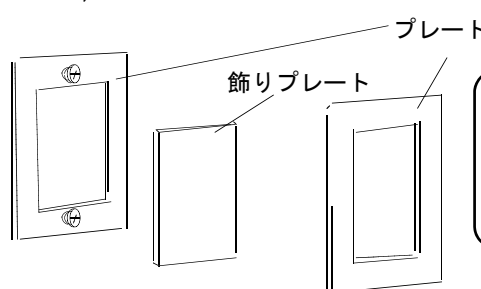
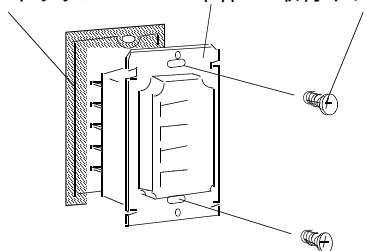
100ms以上接点が閉じるワンショットの無電圧 a 接点をご使用ください。

【適合機器】 本器は、ライトマネージャー記憶式専用の接点入力用子器です。下記の「適合機器」以外の商品とは接続して使用できません。

ライトマネージャーS（記憶式 4回路・6回路 ） NQ28641, NQ28661
ライトマネージャーL（記憶式コントローラ4C・6C） NQ27041, NQ27061

【取付方法】

スイッチボックス 本体 取付ネジ（M4 皿）



同梱部品

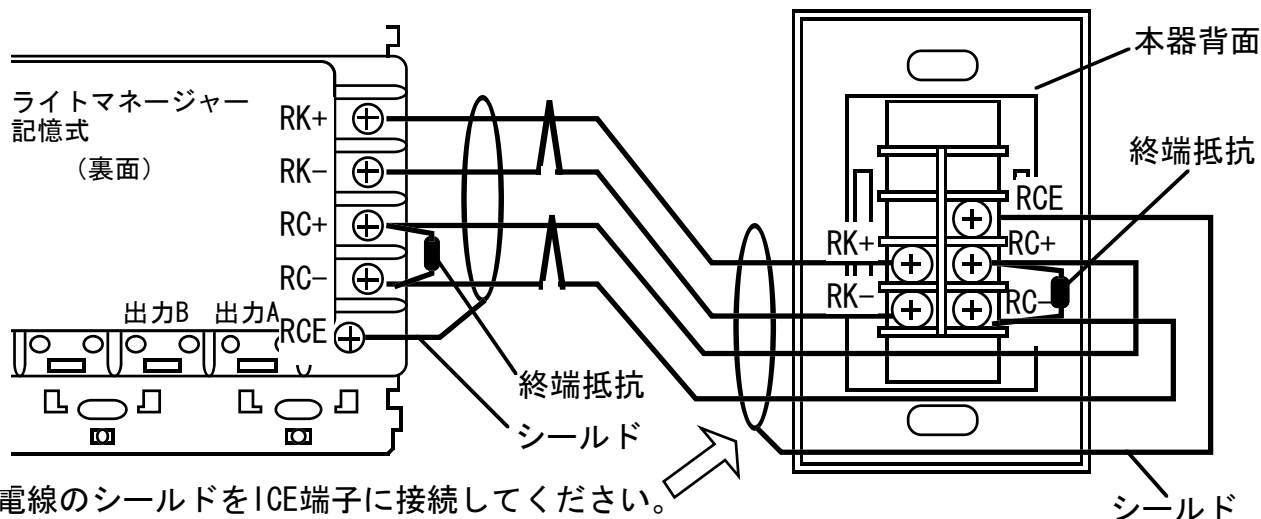
終端抵抗	1個
プレート	1個
施工・取扱説明書	1枚
コネクタ付リード線	2本

JIS 1個用スイッチボックス を使用してください。

- 親器と端子記号が一致するよう配線してください。
動作や表示に異常があるときは、端子の接続に間違いがないか確認してください。
- 飾りプレートは上下の方向を間違えないよう取り付けてください。
間違えて取り付けると破損することがあります。

【親器との結線方法】

ライトマネージャー記憶式と接続します。配線にはCPEV-S $\phi 0.9 \times 3$ ペアをご使用ください。信号線の両端の機器のみ、IC+とIC-端子間に終端抵抗が必要です。



電線のシールドをICE端子に接続してください。

必ずライトマネージャー記憶式に接続し、親器と端子記号が一致するよう配線してください。動作や表示に異常があるときは、端子の接続に間違いがないか確認してください。

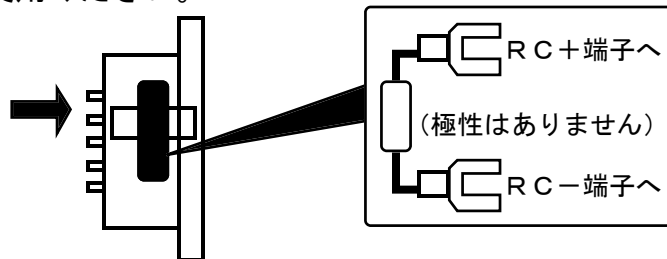
<伝送信号配線と終端抵抗について>

重要

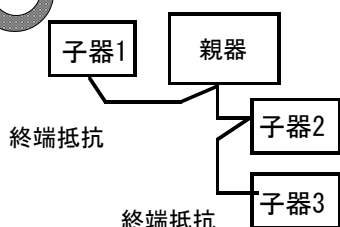
ライトマネージャー記憶式の伝送信号線で周辺機器を接続する場合、

- 1台ずつ送り配線（一筆書き配線）してください。放射状の配線では正常に動作しません。
- 本器を伝送信号に接続できる台数は、他の子器（シーン選択用子器）と合計して最大5台までです。
- 伝送信号の接続を切ったり、増設したり、アドレスの変更をする際は、親器の電源を切ってください。正常な通信ができません。
- 信号端子台のRC+, RC-端子間には同梱の終端抵抗（100 Ω 1W）を接続してください。終端抵抗は、信号配線の両端2ヶ所の機器だけに必要です。必要な機器にだけ接続してください。
- 伝送信号線の総延長は50m以下にてご使用ください。

終端抵抗は、箱を開けていただくと、ビニール袋に入れて、本体の側部位置に貼り付けてあります。

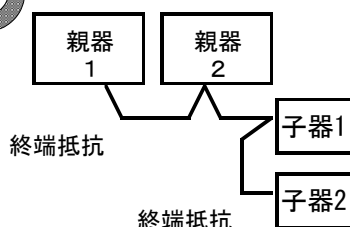


正しい配線方法



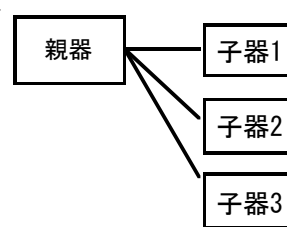
両端の機器（矢印）にのみ終端抵抗が必要です。
矢印の機器以外には終端抵抗は付けなくても構いません。

誤った配線方法



×

誤った配線方法



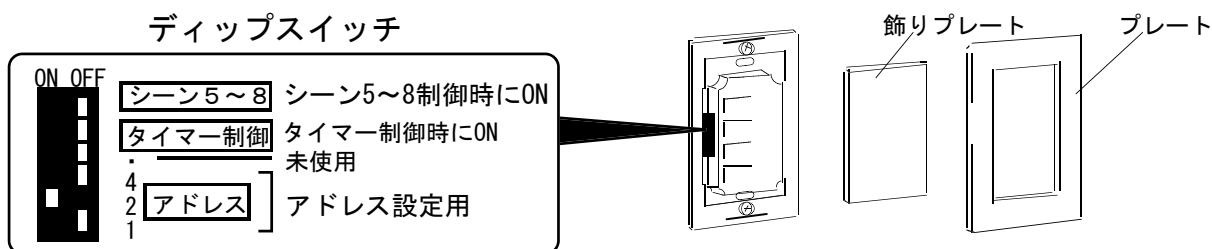
一筆書き配線でないため、終端抵抗に関らず正常に動作しません。

ご注意

接続する機器の数に関係なく、必要な終端抵抗は2つだけです。終端抵抗がなかったり、両端以外の機器に終端抵抗を接続すると、動作に支障をきたす場合があります。

【ディップスイッチについて】

本器は使い方により、ディップスイッチの設定を変更する必要があります。
プレートと飾りプレートを外すと、左側にディップスイッチが配置されています。



細いマイナスドライバーやペン先などを使って設定してください。

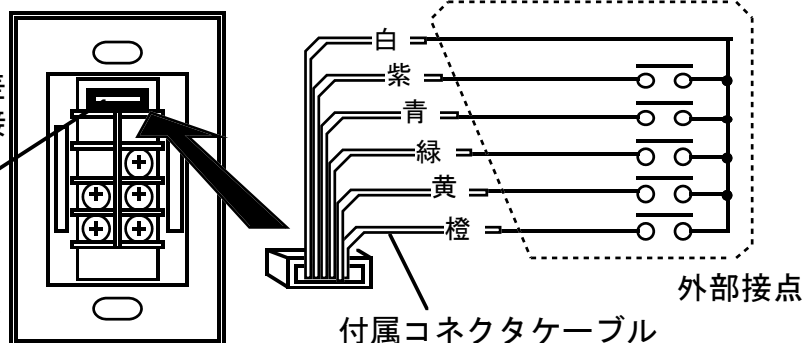
ディップスイッチは6 Pですが、上から3番目は使用しません（操作無効です）。

【接点入力のかた】

付属コネクタを本体裏面の上部に差し込み、各リード線に外部接点を接続して使用してください。

入力コネクタ

<本器裏面>

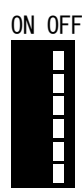


本器はディップスイッチの設定により、3通りの使い方ができます。

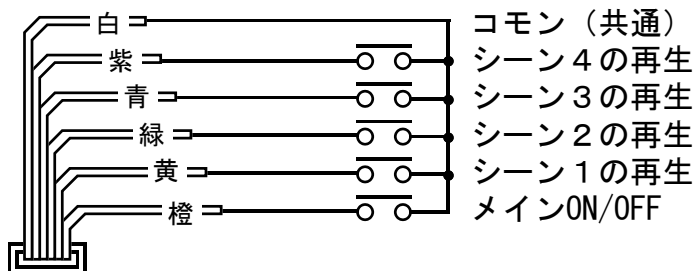
付属コネクタケーブルの各線は、使い方により下記のように機能が変わります。

1) シーン1～4を親器と別の場所から操作するのに使う

(裏面左から)



ディップスイッチの
上から1番目と2番目
をOFF側に設定します



2) シーン5～8を再生するのに使う

(裏面左から)

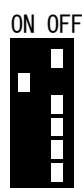


ディップスイッチの
上から1番目をON側、
2番目をOFF側に設定
します

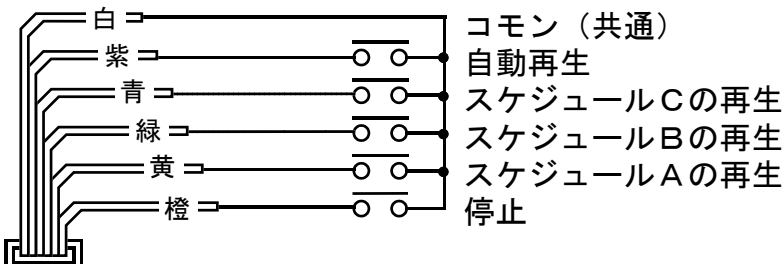


3) タイマーで設定したスケジュールを再生するのに使う

(裏面左から)

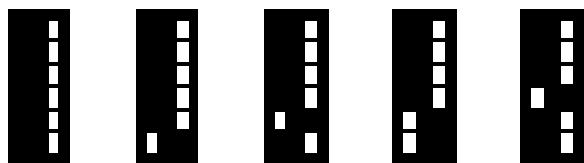


ディップスイッチの
上から1番目をOFF側、
2番目をON側に設定
します



出荷時には上記の1) シーン1～4を別の場所から操作するのに使えるよう、
設定されています。必要に応じてディップスイッチの設定を変更してください。

左記 1) から 3) のいずれか 1 つの使い方で、本器を 2 台以上使用する際には、それぞれのアドレス（ディップスイッチの下 3 つの設定）を別にしてください。

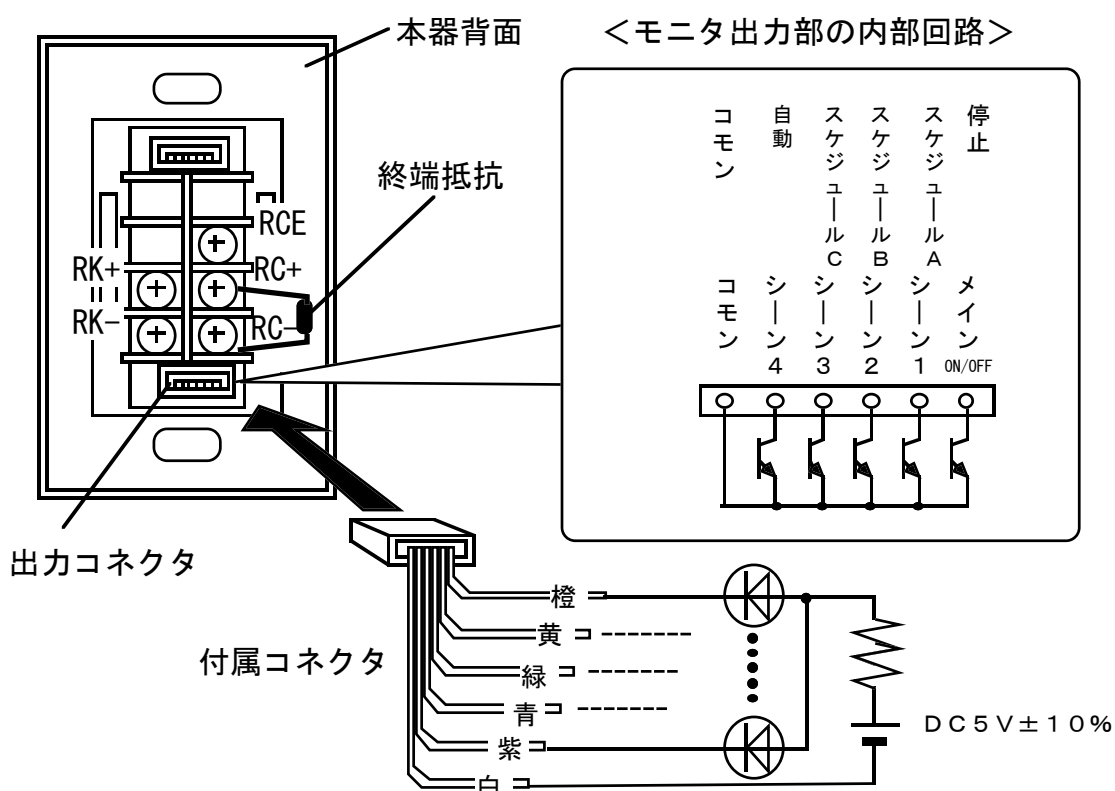


左の図のように、ディップスイッチの下 3 つの組み合わせが 1 台ずつ違っていれば OK です。

<左記 1) の用途で 5 台使用する場合の例>

【モニタ出力コネクタについて】

本体裏面の下部にあるコネクタはトランジスタ・オープンコレクタの出力モニタです。下図のように外部に DC 電源と LED などを接続すれば、閉じている接点をモニタすることができます。



モニタ出力端子用適合ハウジングは日本圧着端子製 PHR-6 です。同梱のコネクタ付リード線をご使用ください。

■その他使用上のご注意

- ライトマネージャ記憶式親器でのシーン記憶操作、またはタイマー子器でのタイムスケジュールの設定が先に必要です。
- 本器でできるのは、予め記憶されたシーンまたはタイムスケジュールの選択だけです。直接個別回路の調光操作をすることや、記憶操作はできません。